# PDF Document Template, BXjs Class

## 1 本テンプレートの使い方

#### 前提条件

- tidyverse, knitr, rmarkdown, psych, kableExtraパッケージ\*1
- RStudio\*2
- **Noto**フォント (Linux)・ヒラギノフォント\*3 (macOS)

#### 作成手順

- 1. tinytexパッケージをインストールする
- 2. tinytex::install\_tinytex()でtinytexをインストールする
- 3. tinytex::tlmgr install("haranoaji")で原の味フォントをインストールする\*4
- 4. latex/tufte preamble.texを開いてOS環境に見合ったフォント設定を有効にする\*5
- 5. 本ドキュメントをknitする
  - 必要なTeXパッケージはtinytexが自動的にインストールする
  - もしTeXのメッセージが出た場合にはログを参考に必要なパッケージをインストール\*<sup>6</sup>する
  - 出力フォーマットを変更したい場合はYAMLのdocumentclass指定を変更する

#### 1.1 制限事項など

R MarkdownでPDFを作成するのは簡単ですが、日本語を含んだPDFを作成するには様々な知識が必要です。特にTeXの知識がないと日本語の表示すらままなりません。特にWindows環境は経験的に厄介ですので基本的にサポートはありません。

- tinytex以外のTeX/LaTeXを利用する場合は手動でパッケージをインストールしてください
  - tinytex以外のTeX/LaTeXでの動作は確認していません
  - RStudioでのLaTeXエンジン指定は必ずxelatexを指定してください
- 本テンプレートは必要最低限の設定だけです
  - TeX/LaTeX\$のデフォルト仕様として図表は自動的に再配置されます
  - 図を位置固定したい場合はsetupチャンク内のfig.posオプションを試してください
  - 表を位置固定したい場合は定義してあるdf\_print()関数を試してください
  - 各種の指定方法は本ドキュメントに記述されています\*7

<sup>\*1</sup> R 4.×推奨

<sup>\*&</sup>lt;sup>2</sup> v1.4推奨

<sup>\*3</sup> 検証していないので推測です

<sup>\*&</sup>lt;sup>4</sup> Windows環境のみ

<sup>\*5</sup> 不要な設定は%文字でコメントアウトします

<sup>\*6</sup> tinytex::tlmgr\_install("package")をRStudioのコンソールから実行します

<sup>\*&</sup>lt;sup>7</sup> ドキュメントサンプル(PDF)\*<sup>8</sup>も参照してください

- Winodws環境はレンダリングに時間がかかる場合があります
- レンダリング時にxeCJKパッケージのワーニングが出ます\*9
- 平仮名の「う(U)」が表示されない問題があります\*10
- レイアウト調整をしたい場合はBXjsclsユーザーマニュアル(PDF)\*<sup>11</sup>を参照してください
- TeXの特殊文字 (「\TeX」など) は使えません\*<sup>12</sup>

- LaTeX数式モードは使えます

enjoy!

<sup>\*9</sup> フォント設定を再設定しているだけなので特に問題はないかと...

 $<sup>^{*10}</sup>$  Linux環境で原ノ味フォントを指定した場合、Linux環境ではNotoフォントを指定してください

<sup>\*11</sup> https://ctan.math.washington.edu/tex-archive/language/japanese/BX/bxjscls/bxjscls-manual.pdf

<sup>\*12</sup> もしかしたらなにか指定方法があるのかも...

## 2 独自の関数定義

PDFではインタラクティブな表が使えません。また、tufteは余白が広いので通常の表出力では表示できる項目数が限られてしまいます。そこで、表現の自由度を高めるためにkableExtra パッケージとpsych パッケージを用いた $\mathrm{df_print}()$  関数 $^{*13}$ を定義してあります。以下は使い方の一例です。

```
1 mtcars[1:6, 1:6] %>%
2 df_print(caption = "デフォルトの表示方法です")
```

<b>耒</b> 1·	デフォ	· 11.	トの表示方法です
1X I.	ノノム	ノレ	トのな小刀広しり

	mpg	cyl	disp	hp	drat	wt
Mazda RX4	21	6	160	110	3.9	2.62
Mazda RX4 Wag	21	6	160	110	3.9	2.88
Datsun 710	22.8	4	108	93	3.85	2.32

```
mtcars[, 1:6] %>%
df_print(caption = "データの先頭と最後から規定行数表示します",
head_tail = TRUE)
```

表2: データの先頭と最後から規定行数表示します

	mpg	cyl	disp	hp	drat	wt
Mazda RX4	21	6	160	110	3.9	2.62
Mazda RX4 Wag	21	6	160	110	3.9	2.88
Datsun 710	22.8	4	108	93	3.85	2.32
•••						
Ferrari Dino	19.7	6	145	175	3.62	2.77
Maserati Bora	15 21 4	8	301 121	335 109	3.54 4.11	3.57 2.78
Volvo 142E	∠1.4	4	121	109	4.11	2.78

```
ntcars %>%
df_print(caption = "全カラムを収めるためにスケールダウン表示します(コードの位置に表示されません)",
scale_down = TRUE, head_tail = TRUE, pos_hold = FALSE)
```

<sup>\*13</sup> 詳細はsetupチャンク内の関数が定義を参照方

表3: 全カラムを収めるためにスケールダウン表示します(コードの位置に表示されません)

	mpg	cyl	disp	hp	drat	wt	qsec	VS	am	gear	carb
Mazda RX4	21	6	160	110	3.9	2.62	16.46	0	1	4	4
Mazda RX4 Wag	21	6	160	110	3.9	2.88	17.02	0	1	4	4
Datsun 710	22.8	4	108	93	3.85	2.32	18.61	1	1	4	1
Ferrari Dino	19.7	6	145	175	3.62	2.77	15.5	0	1	5	6
Maserati Bora	15	8	301	335	3.54	3.57	14.6	0	1	5	8
Volvo 142E	21.4	4	121	109	4.11	2.78	18.6	1	1	4	2

表4: 車のデータセット (コードの位置に表示されません)

speed	dist
Min. : 4.0	Min. : 2.00
1st Qu.:12.0	1st Qu.: 26.00
Median :15.0	Median : 36.00
Mean :15.4	Mean: 42.98
3rd Qu.:19.0	3rd Qu.: 56.00
Max. :25.0	Max. :120.00

## 3 R Markdown

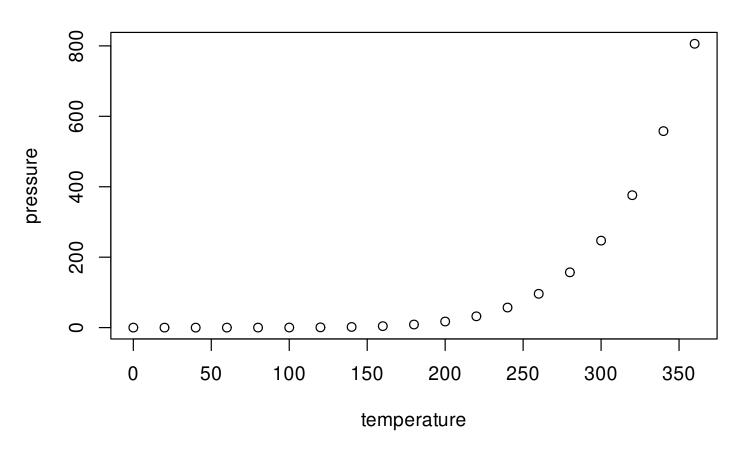
This is an R Markdown document. Markdown is a simple formatting syntax for authoring HTML, PDF, and MS Word documents. For more details on using R Markdown see http://rmarkdown.rstudio.com.

When you click the **Knit** button a document will be generated that includes both content as well as the output of any embedded R code chunks within the document. You can embed an R code chunk like this:

```
summary(cars) %>%
knitr::kable(caption = "車のデータセット (コードの位置に表示されません)")
```

You can also embed plots, for example:





Note that the echo = FALSE parameter was added to the code chunk to prevent printing of the R code that generated the plot.

```
iris %>%
ggplot2::ggplot(ggplot2::aes(x = Petal.Width, y = Petal.Length)) +
ggplot2::geom_point() +
ggplot2::geom_smooth(method = "lm") +
ggplot2::labs(caption = "アイリスデータセット")
```

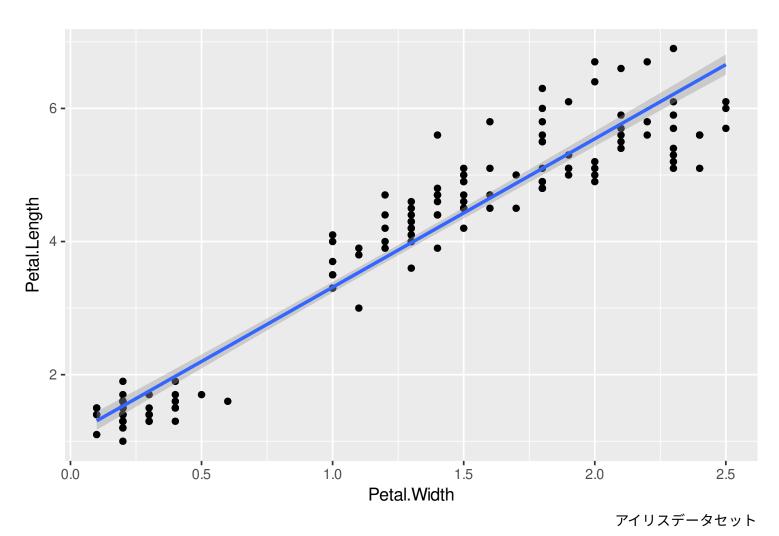


図1: アイリスデータセット